

都市のなかの「農」

東京大学大学院
新領域創成科学研究科

横張 真

資料4



北 部

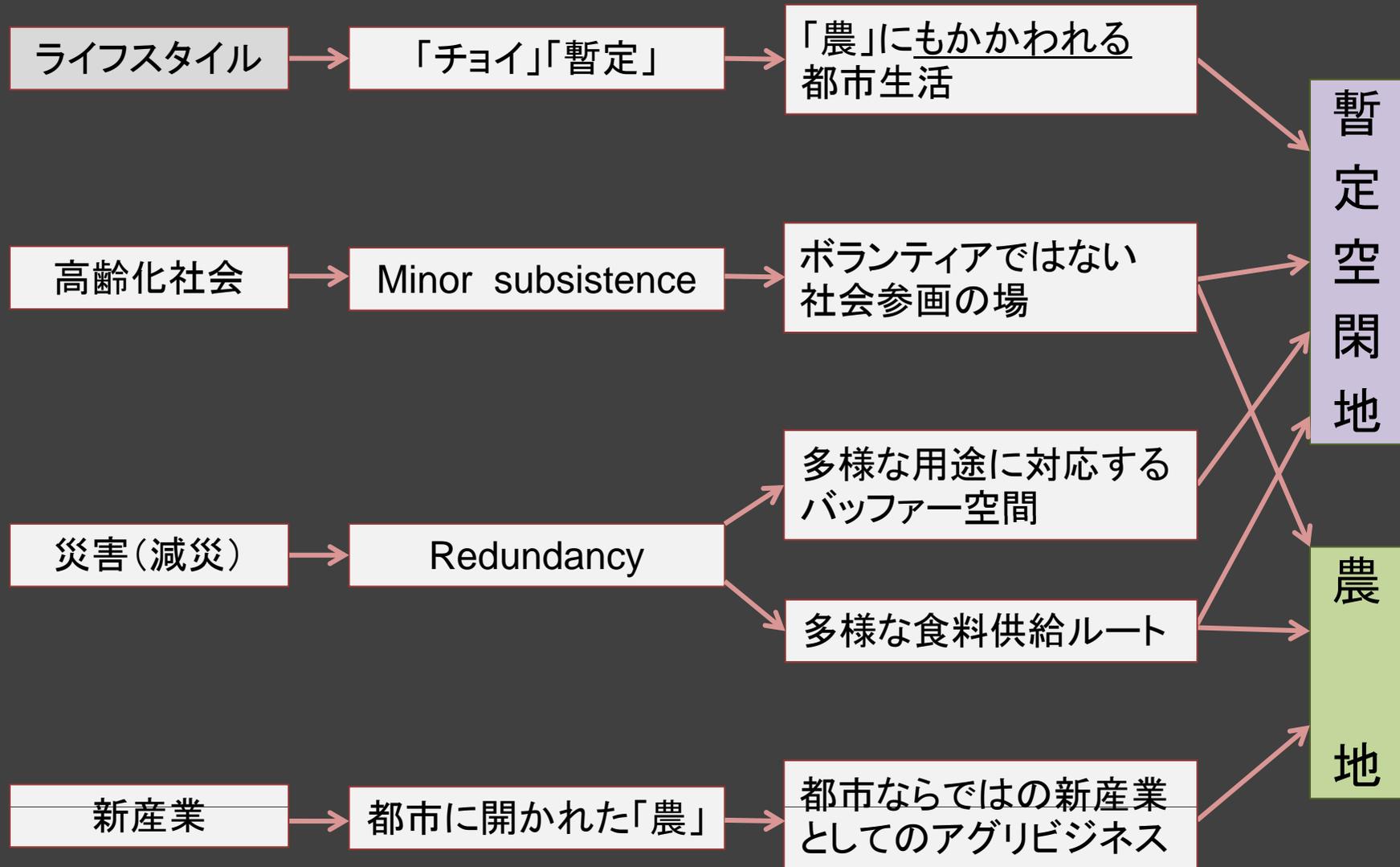
市街化調整区域、農振農用地、大規模水田
農家経営不安定、後継者難、**転用意向**

市街化調整区域よりも市街化区域の方が、農業が安定

市街化区域、生産緑地、蔬菜・花卉園芸
農家経営安定、後継者有、**営農継続意向**

南 部

「農業」「多面的機能」だけではない都市のなかの「農」



新産業



都市に開かれた「農」



都市ならではの
新産業
としてのアグリビジネス

体験農園（白石農園）

（東京都練馬区）

1997年創設

利用者は白石氏の指導のもと、作付、管理、収穫をおこなう（農家の仕事を都市住民が手伝う、という理解）

収穫された作物は、すべて利用者の手に渡る

年会費4万円。約30品目を通年作付け

従来は50～60歳代の利用者が中心
最近では30歳代の子連れ夫婦も急増





An aerial photograph of a densely packed residential neighborhood. The houses are small and closely spaced, with various roof colors. A prominent red-outlined plot is visible in the lower-left quadrant. In the upper-center, a large, dark structure is labeled as a station. The overall scene is a typical urban residential area.

JR武蔵境駅

竹内農園

竹内農園

(東京都武蔵野市)

ブドウ, ナシ等の果樹園

JR駅の直近にありながら, 市民
に支持され, 安定経営





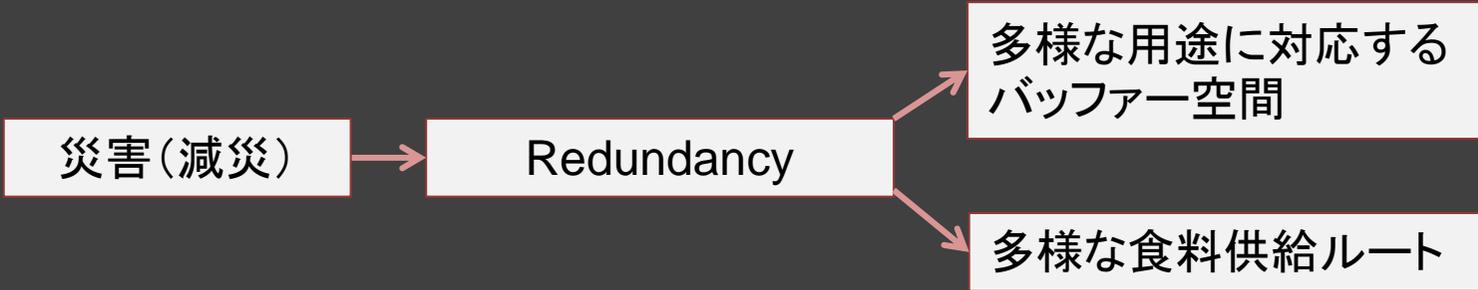
「体験農園は新しい産業です」

白石氏

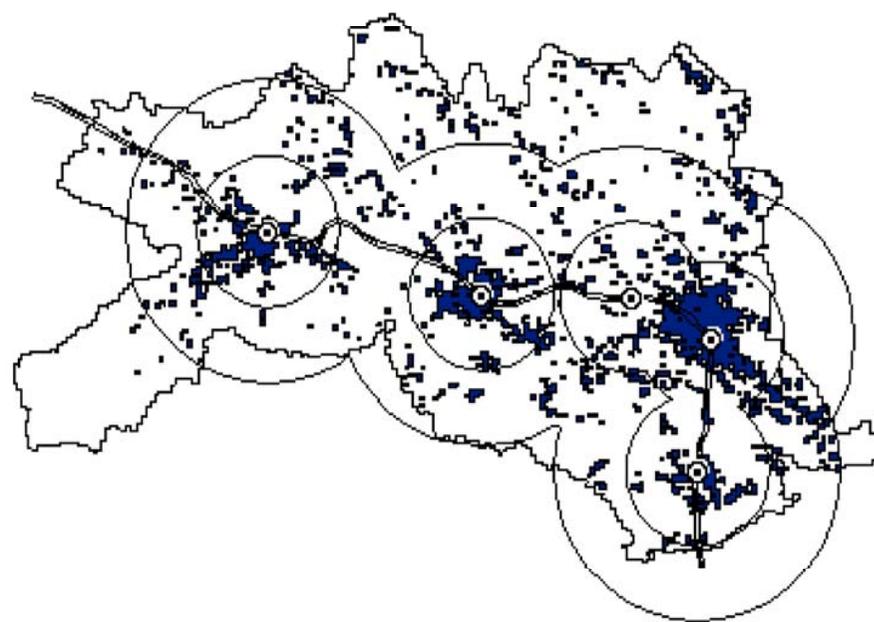
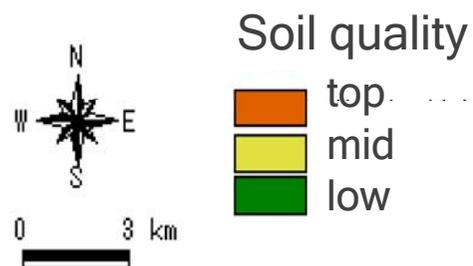
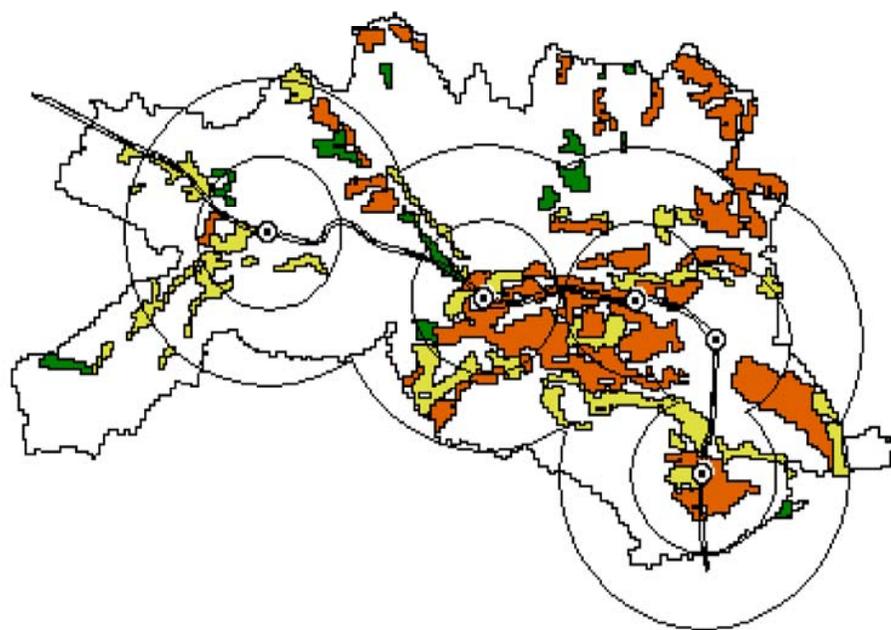
「私のお客さんは半径500mに
お住まいの方です」

竹内氏

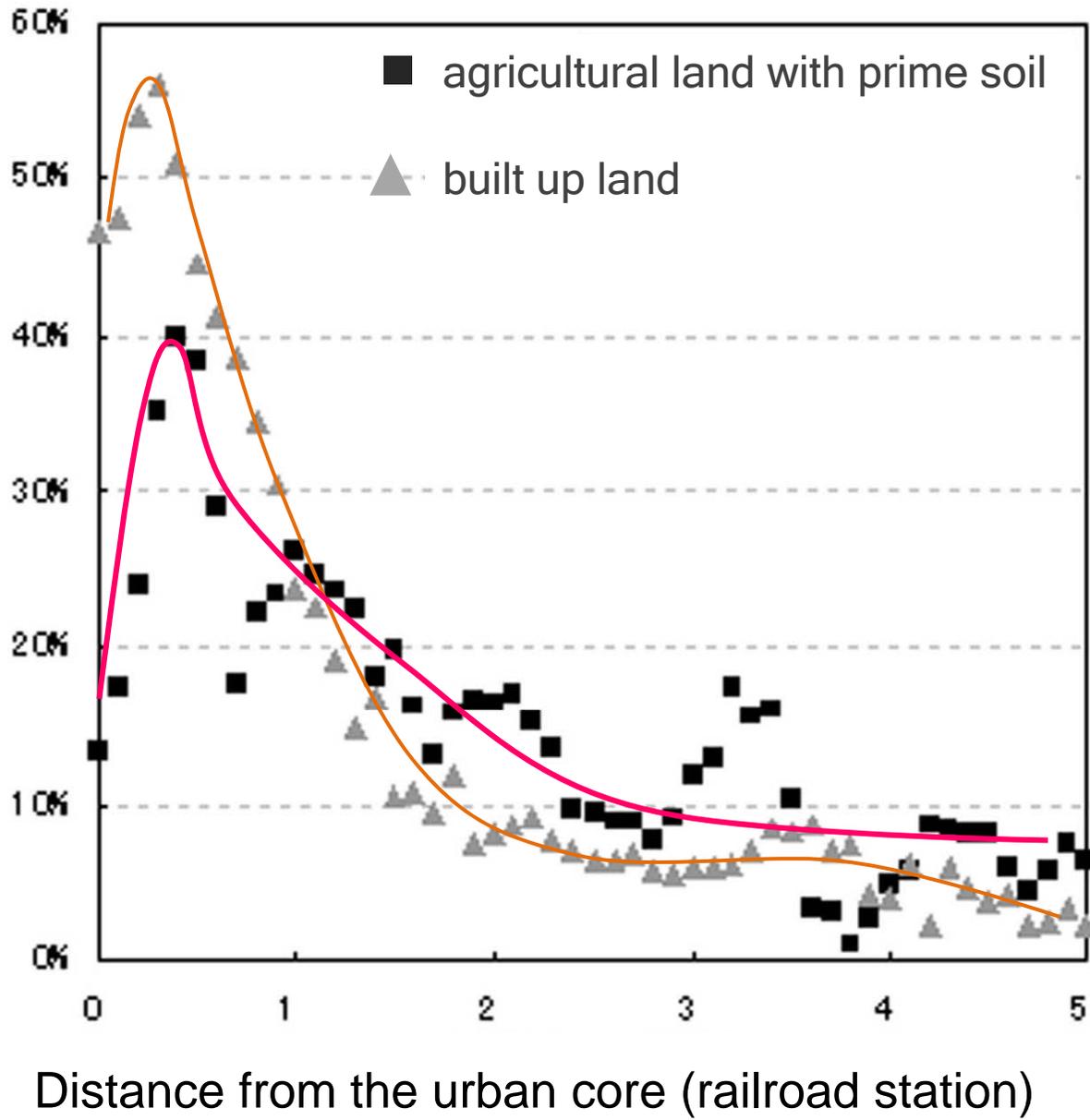




土壌の多品目適性評価からみた都市内農地の農作物生産ポテンシャル



Percentage of agricultural lands with prime soil
and that of built up lands



事例対象農園

市民農園

千葉県 千葉市

菟台市民農園



体験農園

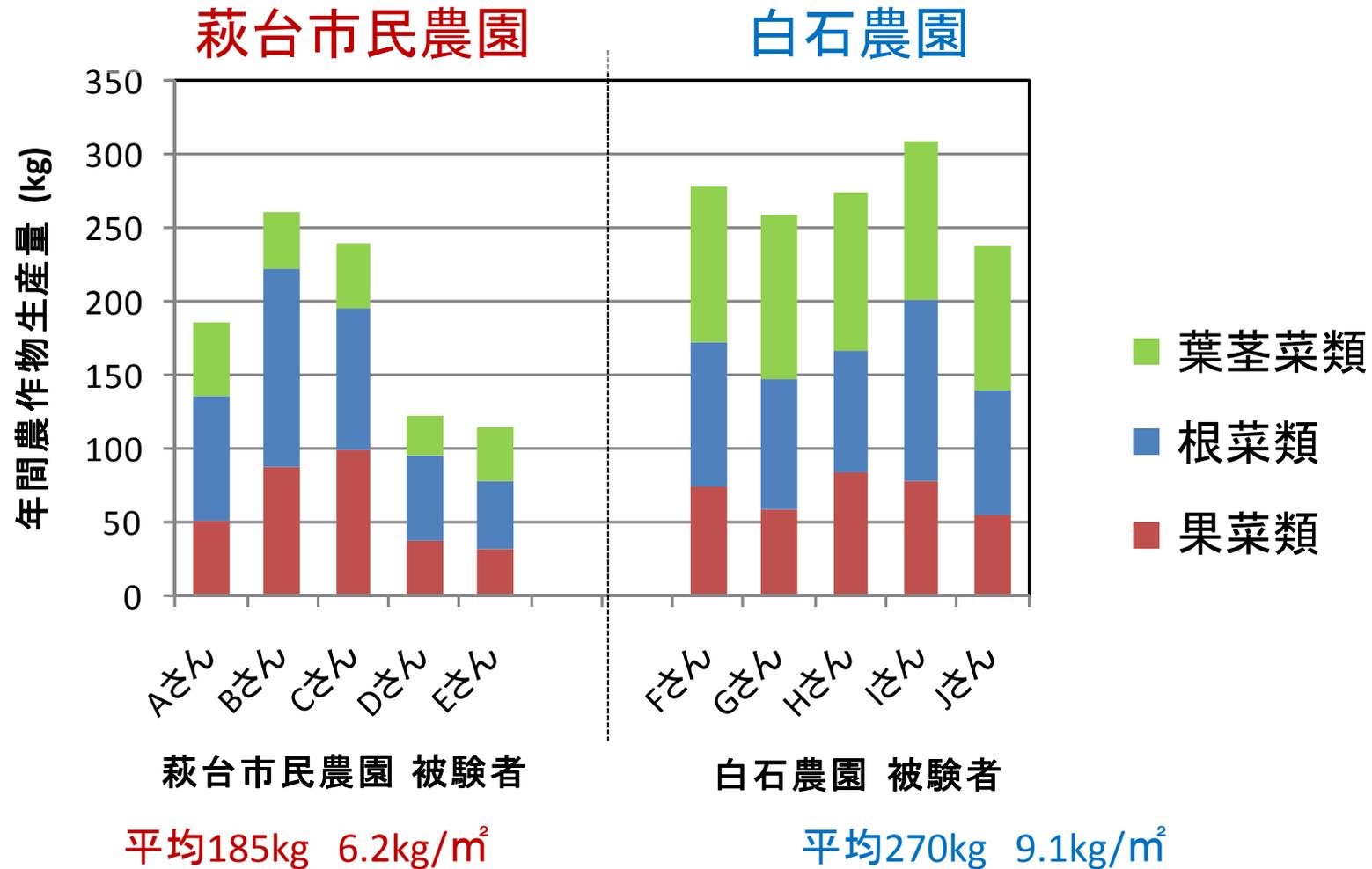
東京都 練馬区

白石農園



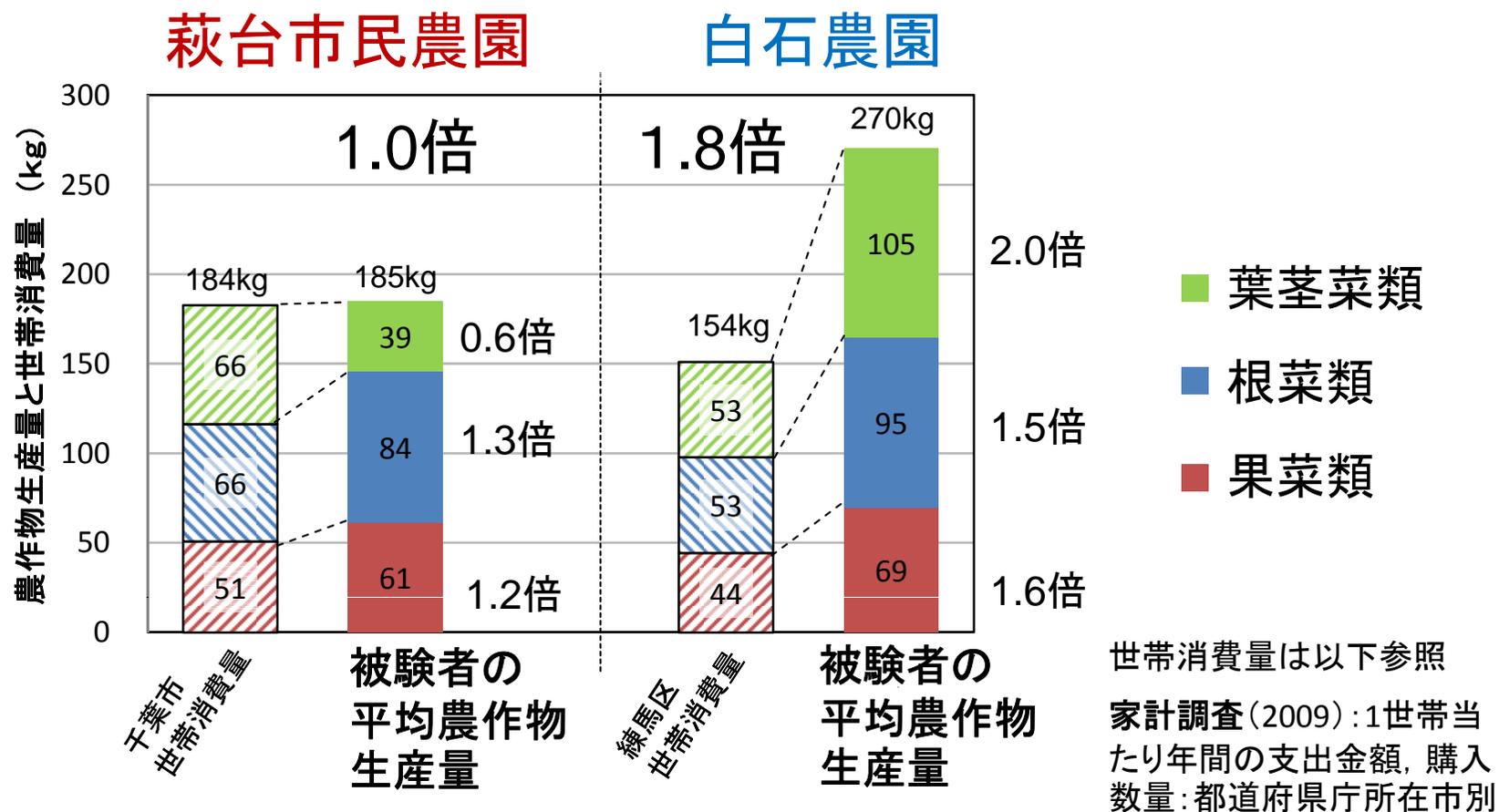
38年	運営期間	14年
121区画	区画数	125区画
30m ²	区画面積	30m ²
12,000円	利用料	43,000円

農園利用者の農作物生産量



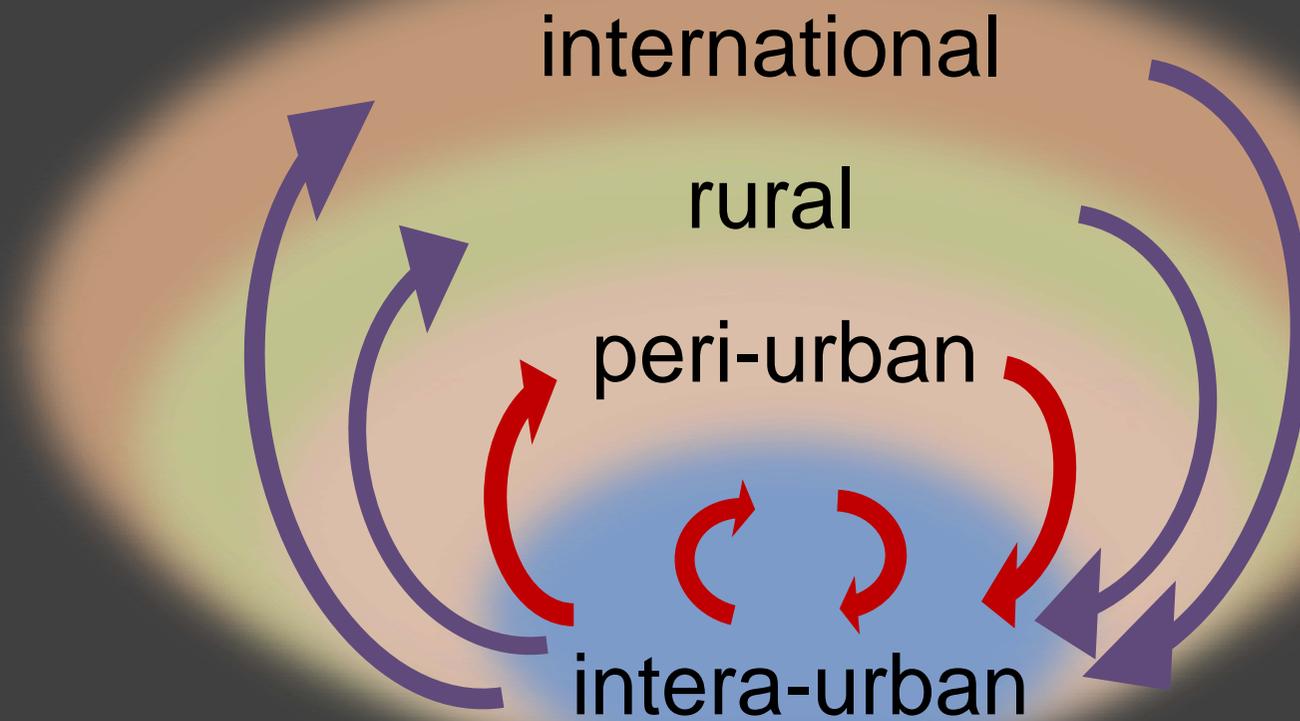
農家の栽培指導により安定的に栽培・収穫が可能

世帯消費量から見た生産量の評価



両農園とも世帯消費量以上の農作物を生産





食や農をめぐるRedundancyの必要性